

『エペソ書・結びの言葉』

'23/07/02

聖書箇所:エペソ人への手紙 6章 21-24節(新約 p.381)



皆さんは、「自分が何のために生まれ…、また、どういったことのために今、生かされているか？」ということをご存知でしょうか？…私たちは、ここ一年以上、このエペソ書のみことばを学んできて、教えられてきたはずで、「私たちは、①神様の栄光を現わすために造られ…、そして、②その神様の栄光に繋がるような、良い行ないをするために救われた…」ということを…。

じゃあ、私たちは、「神様の栄光」という目的のために今、生きていこうとしているのでしょうか？つい先週学んだように、あのパウロは、投獄中の身でありながら、「こんな自分を通して、福音のメッセージが明らかにされて、少しでも、救われる人たちが起こされていくことを祈ってほしい！」ということをお願いしていました。実際、そのパウロを通して、多くの人たちが、イエス様を信じる信仰へと導かれて…、そして、今もまだ、パウロが書いた幾つもの手紙を通して、救われる魂が起こされています。

私たちも願いませんか？…こんな私たちが、人々の救いに貢献できて…、その人たちの永遠を変えることに、少しでも関わることができたら…？なんて…。でも、私たちは、この聖書のみことばを学んで…、それを伝えていくことで、私たちは、神様のなしてくださる救いの御業に関わることができる！貢献できるのです！

命題: 主にあつて忠実な奉仕者がもたらしてくれるものとは？

いよいよ、今日学ぶエペソ 6:21-24 で、この「エペソ人への手紙」の学びも終わります。…パウロは、この手紙を書き終えるにあたって…、この手紙を託したテキコという人物を紹介し、その後、祝福という祈りを捧げています。しかし、当然のことながら、ここにもまた、私たちが学んでいくべき…、また、私たちの生活に適用していくべき教えがあります…。今日は、このみことばを通して、「主にあつて忠実な奉仕者がもたらしてくれる祝福」というべきものについて、ご一緒に学んでいきたいと思ひます。最初に、今日与えられた聖書のみことばである、エペソ 6:21-24 を読ませていただきます。

21 あなたがたにも私の様子や、私が何をしているかなどを知っていただくために、主にあつて愛する兄弟であり、忠実な奉仕者であるテキコが、一部始終を知らせるでしょう。

22 テキコをあなたがたのもとに遣わしたのは、ほかでもなく、あなたがたが私たちの様子を知り、また彼によって心に励ましを受けるためです。

23 どうか、父なる神と主イエス・キリストから、平安と信仰に伴う愛とが兄弟たちの上にありますように。

24 私たちの主イエス・キリストを朽ちぬ愛をもって愛するすべての人の上に、恵みがありますように。

I・主にある 励まし ! (21-22 節)

主にあつて、忠実な奉仕者がもたらしてくれるものとは、一体、何でしょうか？ 今日のみことばが、まず第1に教えてくれていることは、主にある“励まし”です。霊的に成熟したクリスチャンは、他のクリスチャンたちに霊的な元気…、つまり、パワーを与えてくれるのです…。

どうぞ、まずは、皆さん…。エペソ書の学びを終えるに当たって、私たちが学んできた内容を思い出してみてくださいませう？…このエペソ書は、どんなことを教えてくれましたか？⇒例えば、有名なのは…、まず、エペソ 1:4 で、『神は私たちが世界の基の置かれる前から彼にあつて選び…』とあつたように、真の造り主なる神様は、私たちが救われるということ遥遥以前から選んでおいてくださっていた…、ということが教えられていました。多くのクリスチャンが、このみことばによって励まされ…、感謝を神様に捧げてきたはずで…。そしてまた、エペソ 1:13-14 の、『13 この方にあつてあなたがたもまた、真理のことば、あなたがたの救いの

福音を聞き、またそれを信じたことにより、約束の聖霊をもって証印を押されました。14 聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です。これは神の民の贖いのためであり、神の栄光がほめられたためです。』とありました…。すべての物の造り主なる神様は、私たちのことを確実に罪から救ってくださった！聖霊なる神は、そのことの保証なのだ！ということ学びました。そしてまた、エペソ 2:8-10 で、「私たちは、神様からの一方的な恵みによって救われたのだ！それは、私たちから出たことではなく、神様からの賜物…、つまり、ギフトだ！」というわけです。そして、神様は、私たちが良い行ないに歩めるよう、その良い行ないをも、あらかじめ備えてくださったのだ、と教えます。

そして、4章以降のみことばは、「私たちが、神様のみこころに沿って歩んでいける！そこには、間違いなく、神様の助けと祝福とがある！」ということを教えてくれました…。このみことばは、その当時の小アジア周辺のクリスチャンだけではなく…、それから 2000 年経った今でも、世界中で読まれ…、多くのクリスチャンたちに喜びや感動を与え…、多くの人たちの人生を変えるのに用いられています…。

●パウロが、テキコを選んだ理由とは？

今回のみことばの 21-22 節で、パウロは、この手紙をテキコという人物に託した“理由”について話されています…。どうぞ、まずは、21 節をご覧ください。ここで、パウロは、このテキコを選んだ理由として…、①テキコが、『主にあつて愛する兄弟』であつたということ…、そして、②テキコが、『忠実な奉仕者』であつたということ…、そして、③テキコが、パウロの置かれていた状況や、その様子をよく知っていたから…、という理由を挙げてくれています…。

皆さんも、よくご存知のように…、この当時に手紙を出すということは簡単なことではありませんでした…。今の時代のように、切手を貼って、郵便ポストに投函すれば、それでおしまい、というわけにはいかなかったからです。この当時は、手紙を書いても…、普通は、それを自分たちで持って行く必要がありました…。

でも、皆さん、考えてみてくださいませう？…この手紙を書いた時、パウロはローマの獄中にいたのです。そこから、この手紙の宛先であつた小アジアへは、直線距離にしても、実に 1000km 近くの距離があります。しかも、その間には、地中海が広がっているのです…。

皆さんからすると、冗談のように思われるかも知れませんが…、私の場合などは、今の時代にアメリカに行くことでさえ…、「ひょっとしたら、飛行機事故に遭うかも知れない…」とか、「アメリカで何かの事件に巻き込まれるかも知れない…。もう帰ってこられないかも知れない…」などと考えたりして…、簡単な身辺整理をしてから行くようにしているのです(苦笑)。しかし、この当時、ローマから小アジアに行くなんていうことは、安全面において…、あるいは、時間や費用において…、その他、様々な点において、今の時代に生きる私たちには、想像もつかないことばかりだつたはずじゃありません？

だから、聖書の中でも…、例えば、良きサマリヤ人の例え(ルカ 10:29-37)に、強盗に襲われた人の話が出てくるわけです…。それだけでなく、あのイエス様と一緒に十字架に磔にされた者たちも…、そして、イエス様の代わりに釈放されたバラバも強盗でした…(ヨハネ 18:40)。また、Ⅱコリント 11:25-27 に記されている、パウロの証しには、こんな文言があります。『25 むちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度あり、一昼夜、海上を漂ったこともあります。26 幾度も旅をし、川の難、盜賊の難、同国民から受ける難、異邦人から受ける難、都市の難、荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難に会い、27 労し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢え渴き、しばしば食べ物もなく、寒さに凍え、裸でいたこともありました。』って…。まあ、このように、この時代に手紙を持っていくということは、決して、簡単な…、たやすいことではなかったのです…。そんな大役を、パウロは、この時、テキコという信頼できる人物に託したわけで、テキコもまた、そんな大変な働きを、パウロと神様のために、まっとうしようとしたのです。

①『主にあって愛する 兄弟』であったから！

そういったような…、重要かつ危険で犠牲の多かった任務を、パウロは、このテキコに託そうとした、その理由として…、①テキコが、『主にあって愛する兄弟』であったということが挙げられていました。簡単に言い換えますと、テキコが、自分と同じ信仰を持ったクリスチャンであったからだ、ということです…。

『主にある…』とは、私たちの主…、つまり、イエス様と結び付けられているという意味です…。それは、ちょうど、ヨハネ 15 章で、イエス様が、『わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。』(ヨハネ 15:5)と言われたのと同じです…。私たちクリスチャンの特徴として…、皆、主であられるイエス様と結び合わされているが故に、お互いに労り合い…、愛し合おうとします…。お互いに、キリストのからだの一部分であり…、主にある兄弟姉妹！神の家族だからです。

実は、いろいろと調べてみますと、この当時にも、ある種の郵便制度があったことが分かります…。しかし、主なものは、公的なもので…、普通の一般市民がプライベートな手紙を送るのは、やはり難しかったようです。まして…、パウロはローマ市民ではありませんでしたが、投獄中の身でありました。しかも、その宛先は、国家的迫害の中にあつた、キリスト教会です。そう考えると、この任務はクリスチャンにしか託すべきでない…、託せないと考えたパウロの気持ちは分かります…。

②『忠実な奉仕者』であったから！

もう一つ、パウロがテキコを選んだ理由として…、『“忠実な奉仕者である…”』とありました。この場合、明らかなのは…、テキコは、まず、パウロに対して、忠実に仕えていた！ということです…。

残念なことは…、時々ですが、神様に対しては、忠実であろうとしているクリスチャンが、人間に対しては、あまり忠実ではない、というようなことがあつたりします…。そう、バランスが悪いのです。あるいは、方向性が間違っているのです…。例えば、マルコ 9:35 で、イエス様は、こう教えてくださいました。『イエスはおすわりになり、十二弟子を呼んで、言われた。「だれでも人の先に立ちたいと思うなら、みなものしがりとなり、みなに仕える者となりなさい。」』って…。また、Iヨハネ 4:20でも、『神を愛すると言いつつ兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。』と教えられていて…、私たちクリスチャンは、神様によって救われ…、神様を愛しているが故に、自分たちと同じクリスチャンを愛し…、そのクリスチャンに仕えようとするべきである、いや、仕えなければならぬ！と教えてくれているのです。だって…、先程見たように、私たちクリスチャンは、皆同じキリストのからだの一部分であり、同じことを共有しているからです！

パウロは、テキコがただ単に…、クリスチャンであったから、この働きを託したわけではありません…。パウロは、このテキコが本当に神様を愛し…、同じ、主にあるクリスチャンを愛し、そのクリスチャンに喜んで仕えようとしているからこそ、この働きを託すことができる！と考えたのです…。実際、そのような思いが無ければ…、手紙を持って行くために、長く危険な旅に出かけるというようなことは、決して、できませんでしょ？

③パウロの置かれている状況や、その様子をよく知っていたから！

最後にもう一つ…、パウロがテキコを選んだ理由として…、テキコがパウロの置かれている状況や、その様子をよく“知っていた”から…、という理由が挙げられていました。…先週学んだみことばで、パウロは、『(自分が)鎖につながれていても、語るべきことを大胆に語れるように、祈ってください。』(エペソ 6:20)と、この手紙の読者たちに願っていました。そのためにも…、この手紙の読者たちは、パウロの状況などを詳しく

く知って、それを神様に祈っていく必要があつたのです。例えば…、パウロが、投獄されているからと言って…、失意の中にいるのではなく…、そんな中でも神様に感謝を捧げ…、大胆に神様を証しようとしていることや、パウロが何よりも、神様の御計画を重んじて、それに従おうとしている様子などを、この手紙の読者たちが知るることによって、彼ら自身も、そこから励ましを受けることができたのです！

でも、皆さん、ちょっと、この 22 節をご覧ください。その後半部分に、『彼によって心に励ましを受けるため…』と書かれてあることに注目してください。メッセージの冒頭部分でお話したように、確かに、この手紙に書かれてある内容によって、膨大な数のクリスチャンが教えられ、励まされました…。しかし、このみことばが教えてくれていることは、この手紙の内容だけではなく…、この手紙を託されたテキコという人物も、実は重要であつたのです！このテキコだからこそ、小アジアのクリスチャンたちを励ますことができる！いや、このテキコでないとならない！…そうパウロは考えたはずなのです。

一体、何故でしょうか？⇒それは、このテキコが、何よりも、主において忠実な奉仕者であつたからです。言い換えるなら…、テキコが成熟したクリスチャンであつたからです！そのように…、成熟したクリスチャン…、神様を第一に歩んでいるクリスチャンは、人々に霊的な元気を与え…、他の人を励ますことができます！それは、その人が、より、神様に似せられ…、神様のために用いられるからです…。願わくは、私たちも、そのようにクリスチャンとして成長し…、神様の通り良き管として、福音を伝え、神様の御業に用いられるようなクリスチャンとなりたいものですよね…。

II・神様からの祝福！(23-24 節)

次に、今から、今日のみことばの後半部分に入りましょう…。主において、忠実な奉仕者がもたらしてくれるもの…、今日のみことばが、2 番目に教えてくれることは、真の神様からの“祝福”です。もう一度、23-24 節をご覧ください。『23 どうか、父なる神と主イエス・キリストから、平安と信仰に伴う愛とが兄弟たちの上にありますように。 24 私たちの主イエス・キリストを朽ちぬ愛をもって愛するすべての人の上に、恵みがありますように。』

この手紙を書き終えるに当たって、パウロは神様に「祝福」というような祈りを捧げています…。この部分も…、所謂、単なる形式上の挨拶・祈りではありません。しっかりとした目的と内容があるのです…。この手紙の祝福が他のものと違うのは、まずは、その対象です。パウロは、いつも手紙の終わりに、祝福、つまり、「神様の祝福が、あなたがたにありますように…」と祈ってくれています(エペソ書以外のパウロ書簡すべて)。つまりは、その手紙の読者を指しているのです。しかし、この手紙に関してだけは、三人称、つまり、『兄弟たちの上に…』とか、『すべての人の上に…』とあるのは、この手紙の性質が、特定の教会にだけ差し出されたものではなく…、回状、つまり、多くの教会において、回覧板のように回されることを期待していたからだとなると、納得がいきます…。じゃあ、次に、この祝福の内容を見ていきたいと思います。

① 平安！

今からは、原語のギリシヤ語で出てくる順番に紹介させていただきます。…まずは、『平安』です。私たちは、元々は、エペソ 2:3 のみことばが教えているように、自分の罪の故に、『生まれながら御怒りを受けるべき…』存在でした。それが、今では、その神様と和解することができ…、神様との平和を持っているのです…。それ故に、イエス様は弟子たちに、『わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。…』(ヨハネ

14:27)とか、『わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたにわたしにあって平安を持つためです。…』(ヨハネ 16:33)と教えてくださいました。…こんな風に、イエスは、私たちクリスチャンに、特別な「神の平安」というべきものを与えてくださいました…。

②信仰に伴う愛！

次は、『愛』です。…しかも、信仰に伴う愛です。当然、ここでも神様の愛を表わす、「アガペー」というギリシヤ語が使われています。私たちは、この神様を知ったことによって、尊い…、本当の愛というものを知ることができました…。皆さんも、よくご存知のように、愛とは、何よりもまず、御霊が結んでくださる良い実です…。だから、あのガラテヤ 5章のみことばは、こう教えますでしょ？『22 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、23 柔和、自制です。…』(ガラテヤ 5:22-23)って…。ですから、このみことばも、ただ単に、「愛」とあるのではなく…、『信仰に伴う愛』とあるのです。本当の信仰には、間違いなく、本当の愛が…、アガペーの愛が伴うからです！

だから、Iヨハネ 3:17のみことばは、こう訴えるのです、『世の富を持ちながら、兄弟が困っているのを見て、あわれみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛がとどまっているでしょう。』って…。主にある兄弟姉妹を愛そうとしない…、それを実際の行ないに移そうとしない者に対して、厳しく非難されているのです…。ヤコブ 2:17のみことばもまた、『それと同じように、信仰も、もし行いがなかったなら、それだけでは、死んだものです。』とあるように、人を救うことができる本物の信仰には、必ず、行ないが伴うのです。

この点について、もう少し説明させてください…。Iテサロニケ 3:12のみことばも、こう教えます、『また、私たちがあなたがたを愛しているように、あなたがたの互いの間の愛を、またすべての人に対する愛を増(ま)させ、満ちあふれさせてくださいますように。』って…。それとまた、IIテサロニケ 1:3のみことばも、『兄弟たち。あなたがたのことについて、私たちはいつも神に感謝しなければなりません。そうするのが当然なのです。なぜならあなたがたの信仰が目に見えて成長し、あなたがたすべての間で、ひとりひとりに相互の愛が増し加わっているからです。』とあって、私たちの信仰や愛が、神様によって成長させられ…、増し加えられるということが教えられてあります。だから、今日のみことばでも、『どうか、父なる神と主イエス・キリストから…』とあるのです。…と言いますのは、私たちの信仰も、愛も、その源…、ルーツは、神様であるからです。

③恵み！

聖書は、そういうことを『恵み』であると教えます。先程も言いましたように、エペソ 2章初めには、私たちは自分自身の罪や愚かさの故に死んでいたものであって…、かつては、神様に従うどころか、悪魔の手下となって生きていたのです。だから、私たちは、『生まれながら(、神の)御怒りを受けるべき』(エペソ 2:3)存在だったのです！

それこそが、私たちが受けるにふさわしい…、当然の報いでありました。それこそが普通であり…、それが当たり前だったのです！だから、聖書のみことばはこう教えるのです。『16 いつも喜んでいなさい。… 18 すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。』(Iテサロニケ 5:16-18 抜粋)って…。だって、私たちが本来受けるべき当然の報いは罪の裁きであり…、永遠の地獄・あのゲヘナであつたからです。それ以外のものは皆、神様からの恵みであり、憐れみなのです。…私たちは、何よりもまず、そのことをよく覚えることが必要なのではないでしょうか？

まず間違いなく…、私たちは今の自分の環境や、今与えられているものを当たり前のように考えてしまっています。皆さんもそうじゃありません？…だから、私たちは、例えば、健康を失った時や、仕事を失ってしまった時に、こう言うのです、「神様！ どうしてですか！」って…。でも、実は、私たちの命はもろろんのこと

…、今の健康や家族…、あるいは、食べ物や住む所など…、すべては、神様からの恵みであり…、祝福なのです！ そうでしょ！

例えば、皆さん。…義人ヨブのことを思い出してみてください。ヨブは、悪魔の誘惑に会って、自分の財産と子どもたちを失って、しまいには、自分の健康まで失ってしまった後、神様のことを呪いました？…いいえ！ それでも、ヨブは、『私は裸で母の胎から出て来た。また、裸で私はかきこに帰ろう。【主】は与え、【主】は取られる。【主】の御名はほむべきかな。』(ヨブ記 1:21)と言って、神様のことをあがめたじゃないですか！

私たちが毎日毎日を心配せずに生きていくことができることも…、実は、すべてが、私たちには過ぎたものであり…、すべては神様からの恵み・賜物なのです！…しかし、実際のところ、私たちは、すぐに思い通りに事が運ばないと…、「もう、腹が立つ！ 神様は、私のことなんて心配して下さってないのだ！」などと考えたりしてしまいます…。皆さんもありませんでした？「もう、生きていたくない…」なんて、考えたりしてしまつたことが…。

しつこいようですが、私たちは、神様から与えられる恵みの数々を「恵み」ではなくて…、「自分たちが受けて当然」のように思ってしまうてはいないでしょうか？…本来、クリスチャンという者は、そのことをよく分かっているが故に、すべてのことについて感謝し…、与えられた環境の中で、より神様を愛し、従っていこうとするはずなのです…。

●その対象！

最後に、今日のみことばの 24 節をご覧くださいと、『私たちの主イエス・キリストを朽ちぬ愛をもって愛するすべての人の上に、恵みがありますように。』とあって…、パウロは、必ずしも、すべての人類の上に、神様の恵みが臨むことを、ここでは祈っていないということが分かります…。

良いです、皆さん？ここ 24 節には、『主イエス・キリストを朽ちぬ愛をもって愛するすべての人の上に…』と、あるのです…。ここで、『朽ちぬ…』と訳されてある言葉(ἀφθαρσία)は、「朽ちない、不朽、不滅、不死…」というような言葉で、決して、途中で変質したり…、消滅したりしない、ということ教える場合に使われるような言葉なのです。しかし、ここで一見不思議に思うことは…、神様がそのような愛で、私たちのことを愛して下さったというなら、よく分かるのですが、ここでは神様の愛ではなく…、私たちクリスチャンの側の、神様に対する愛について説明されてあるのです…。そうですよね？

一体、どうして、私たちのような自分勝手な者が、そのような変わることはない…、偉大なる愛でもって、神様のことを愛することができるのでしょうか？⇒それは…、神様が、まず、そのような愛でもって、私や皆さんのことを愛して下さったからです！ そうして…、その神様が、私たちに「朽ちることがない、本物の愛」を与えて下さったからです！…だから、Iヨハネ 4:7のみことばは、こう教えますでしょ？『愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましよう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。』って…。神様によって救われ…、神の子とされた私たちは、その神様によって変えられ…、神様から、そのような『朽ちぬ愛』を与えられたが故に、信仰を持って、10年経とうが、20-30年…、あるいは、50年経とうが、この神様のことを愛さずにはおれないのです…。

<励ましの言葉>

ここにおられる皆さんも、神様に対する、そのような愛を持っておられるはずですよ。だから…、例えば、新型コロナウイルスの時だって、教会に来ないではおられなかったし…、神様を賛美したいとか…、礼拝を捧げずにはおられなかったのではないのでしょうか？また、神様のみことばを学びたいし…、神様のために何かしたいのです！ そうじゃありません？

それは、ただ、神様のことを知ったから、というよりも…、神様の偉大さを知ったからです！神様に仕えることの素晴らしさを知ったからです！神様が、自分のような罪深い者のために、信じられないほどの大きな犠牲を払って、あの罪から救い出してくださったということを知ったからです！そうですね？

この 24 節…、パウロは、必ずしも、すべての人の上に、神様の恵みが臨むことを願ってはいないと言いました…。そのことをもう少し説明させていただきますと…、その理由は、多くの人たちが、この神様のことを信じず…、この神様からの恵みを拒んでおられるからです！真の神様が、すべての人たちのことを愛し…、恵みを与え…、救い主まで与えて、救いを用意してくださったにも関わらず…、実に、多くの人たちが、この神様のことを知ろうとしないばかりか、その神様のことを拒みながら生きておられます。まずは、その人たちが、この神様のことを信じ、受け入れてくださることが必要なのです…。

そして、もう1度、この 24 節をご覧くださいと、『私たちの主イエス・キリストを朽ちぬ愛をもって愛するすべての人の上に、恵みがありますように。』とあって…、神様の恵みに対して応答した人たちの“すべての人”の上に…、また、神様を愛そうとする“すべての者”の上に、より一層の恵みがあることをパウロは祈ってくれています…。もちろん、これはただ単に、パウロの祈り&願いというだけでなく…、神様からの素晴らしい約束でもあります…。

どうぞ、益々、神様の恵みに感謝し…、神様を愛し続ける者であり続けてください…。神様からの恵みというようなものは、そういった人たちの上に、より多く注がれるのです…。ですから、どうか、この神様への愛をもって、神様に仕える者であり続けてください！…最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます…。